

哺乳類

吉野川には、ノウサギ、アカネズミ、カヤネズミ、タヌキ、イタチ、テンなど、多くの哺乳類が生息しています。ここでは、幾つかの哺乳類に焦点を当て、哺乳類と植物との関係を、現地調査の結果を基に、整理します。

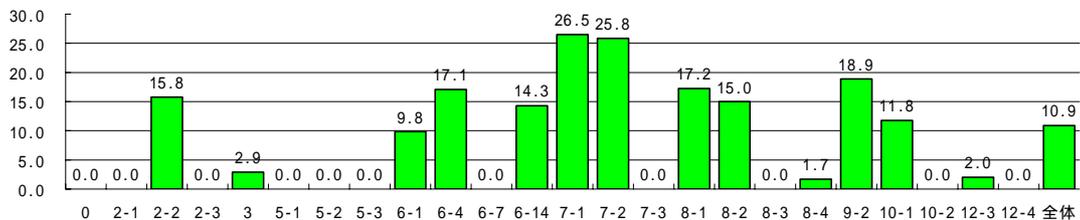
アカネズミ



低地から高山帯まで広く分布しています。森林に生息していますが、河川敷の下生えが密生しているところにも多数見られます。食べ物は、葉緑素を含まない柔らかい植物の根茎部、実生、種実、昆虫類を食べます。

平成12年の秋に、吉野川河川敷でトラップ調査を実施しました。その結果、アカネズミの捕獲率は、背の高い草や低木林で多い傾向にありました。特に、オギ群落、メダケ - ネザサ群落、ノイバラ群落、ヒメムカシヨモギ - オオアレチノギク群落、チガヤ群落で、高い捕獲率を記録しました。

植生群落区分とアカネズミ捕獲率(%)

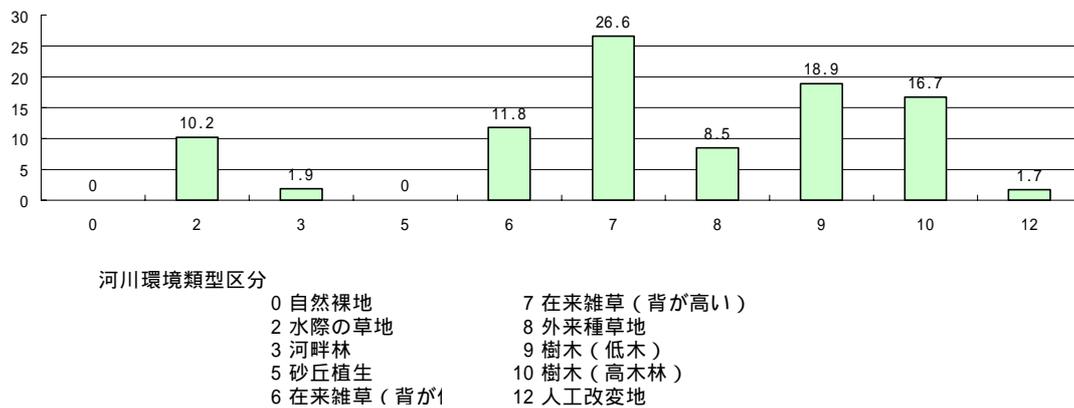


植生群落区分

0	自然裸地	7-1	オギ群落
2-1	ヨシ群落	7-2	メダケ - ネザサ群落
2-2	ツルヨシ群落	7-3	ススキ群落
2-3	セイタカヨシ群落	8-1	ヒメムカシヨモギ - オオアレチノギク群落
3	アカメヤナギ群落	8-2	セイタカアワダチソウ群落
5-1	ケカモノハシ - コウボウムギ群落	8-3	セイバンモロコシ群落
5-2	コウボウシバ群落	8-4	シナダレスズメガヤ群落
5-3	ハマエンドウ群落	9-2	ノイバラ群落
6-1	ヤブガラシ - カナムグラ群落	10-1	エノキ - ムクノキ群落
6-4	チガヤ群落	10-2	センダン - ヌルデ群落
6-7	ネズミノオ群落	12-3	人工草地・採草地
6-14	ヨモギ群落	12-4	人為裸地 - 造成地

植物の群落単位ではなく、河川環境類型別に整理すると、さらに傾向がはっきりします。自然裸地や砂丘植生のような開けた環境では、全くアカネズミが捕獲されませんでした。

河川環境類型区分とアカネズミ捕獲率(%)



ノウサギ



低地から亜高山帯までの森林や草原など様々な環境にみられます。低山から山地帯に多く生息しています。植物を食べます。多くの植物の葉、芽、枝、樹皮を食べます。夜行性で、巣は作りません。

平成12年の秋に吉野川で調査した結果、ノウサギは竹林、草地、河原など、河川敷のさまざまな環境で確認されました。ノウサギの食痕が、竹林や草地で確認されています。ノウサギの行動圏は、一般に10~20haと比較的狭いため、確認された個体の多くは、河川敷内で採餌及び休息を行っていると考えられています。



足跡

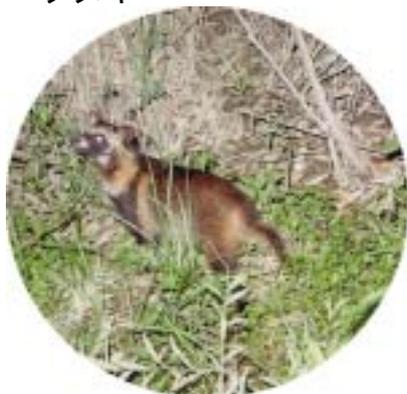


ノウサギの糞



ノウサギの食痕(竹林内の草)

タヌキ



タヌキは夜行性で、日没の約1時間前から行動を開始します。真夜中の休息をはさんで、日の出まで餌を捜しています。昼は草の茂みや木の洞などで休息しています。山地から郊外の住宅地周辺まで広く生息していますが、主要な生息場所は、樹林や林縁部、川や沼沢などが散在しているようなところです。行動圏は餌の状況や繁殖などにより異なりますが、約50haともいわれています。約10箇所の休息・餌場とそれらをつなぐ経路で構成されています。タヌキは、決まった場所に糞をします。

平成12年の秋に、吉野川で調査した結果、竹林内にタヌキのため糞場が複数確認されました。ため糞の糞を分析した結果、タヌキは様々なものを食べていること、各個体によって食べているものが大きく異なっていることが分かりました。糞別に調査した結果、動物質は2～64%、植物質は0～76%、その他は30～80%という結果を得ました。動物質では昆虫類が大部分を占め、その他の消化物には爬虫類・哺乳類の骨片、皮、獣毛が含まれていました。爬虫類の骨片、皮については、皮に付着している鱗の形状から、カナヘビまたは小型ヘビ類であると考えられました。昆虫類では甲虫等の幼虫が糞全体の10%程度と比較的高い割合で含まれているものや、脚部だけが40%も含まれているものがありました。その他、カメムシ目、甲虫目、ハチ目等が少量ですが含まれていました。植物質では、葉や茎の一部が含まれていたほか、果実の皮や種子が多く含まれているものが多く、カキの種が含まれている糞も多く見つかりました。

糞分析から昆虫を多く食べている結果が得られたことから、餌場として河川敷の草地および樹木群を利用している可能性は十分にあります。また、水際部では連続的な足跡が多く確認されていることから、水際部は主要な移動経路として利用されていると考えられます。

ため糞場は情報交換の場として利用されていると考えられているため、ため糞場が確認された竹林の周辺は、タヌキにとって特別な意味を持っているのかもしれませんが。



タヌキの足跡



タヌキのため糞場

イタチ



イタチはふつう、行動圏の中に、本拠地の穴と数箇所の休息用の穴を持っています。主に夜行性で、日が落ちると穴から出て活動し、夜が明けると近くの穴に入って休息します。低地の田畑や人家の周辺から山岳地帯まで生息していますが、中心は平野部の草地で、川沿いなどの水辺を好みます。雄の行動圏は約5ha、雌は2haです。

平成11及び12年の秋に、吉野川で哺乳類の調査を実施しました。

イタチ属の一種の行動圏は、一般に1～10haほどです。イタチ属の一種の足跡や糞が、吉野川全域の河川敷で多数確認されていることから、河川敷で多数の個体が営巣している可能性が高いと思われます。

また、水際部では連続的な足跡が多く確認されていることから、水際部は主要な移動経路として利用されていると考えられます。

イタチ属の糞を分析した結果、植物質よりも動物質が多く含まれていました。動物質では昆虫類が大部分を占めていましたが、ごく少量ですが、哺乳類の骨片、獣毛が含まれているものや、爬虫類の骨、皮が含まれているものがありました。爬虫類の骨片、皮については、皮に付着している鱗の形状から、カナヘビまたは小型ヘビ類であると考えられています。昆虫類ではバッタ目、甲虫目の成虫の羽や足などが含まれていました。糞によっては、甲虫目の幼虫が、糞全体の60%程度も含まれているものがありました。植物質では、葉や茎の一部や種子が含まれていました。



イタチ属の足跡



イタチ属の糞

テン

樹上空間を多く利用するため、森林を生息地としています。しかし、樹木があれば人家の周辺にもみられます。げっ歯類、鳥類、両生爬虫類などの小型脊椎動物、昆虫類やムカデなど土壌動物、ヤマグワ・マタタビなどの果実類と多様なものを食べます。

現地調査において、山地が迫った地点でテンが確認されました。糞分析の結果は、テンの食性が動物食または植物食のどちらか一方に偏り、1～2種だけを多量に食べる傾向を示していました。動物質が多く含まれていた糞では、昆虫類の断片や、幼虫が多く含まれていた他、哺乳類の獣毛が含まれていました。植物質が多く含まれていた糞では、果実の皮や種子、樹皮、葉・根の一部などが多く含まれていました。特に、植物では果実を好んで食べる傾向がみられました。河川敷の樹林地にはアケビ、カキ、クワなどの植物がみられ、テンが河川敷を餌場として利用している可能性が高いと思われます。



テンの糞



テンの足跡

イタチ属やタヌキは吉野川全域で見ることができますが、テンのように、樹上空間を多く利用する動物は、山地が水際に接近している池田ダム付近のような環境にならないと、痕跡さえもみつけることができません。